

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第52号 2021年11月

目次

- 「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) . . . 1~3
- 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告) 3
- 女性に対する暴力撤廃国際デーキャンドルアクション(報告)・ひろしまWENETからのお知らせ 4

「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) 2021年7月31日



今年是被爆76年目です。この集いは、市民をはじめ国内外の観光客とともに、原爆犠牲者の冥福を祈り核廃絶と恒久平和を願い広島から世界にアピールするもので、今年で23回目を迎えました。

第一部は、広島平和記念資料館地下のメモリアルホールにおいて、16歳の時に荒神町で被爆された李鐘根(イ・ジョンゴン)さんから悲惨な体験や差別の現実、核兵器廃絶への強い思いをお聴きしました。

第二部は平和記念公園の原爆死没者慰霊碑前に場所を移し、広島県から選ばれた第24代高校生平和大使の高橋奈乃果さん、佐々木梨央さん、大内由紀子さんの3人からこれからの希望や核兵器廃絶への願いなど使命感あふれる思いが語られ、参加者の注目を集めました。続いて、来賓として広島平和文化センターの小泉崇理事長からご挨拶を賜った後で、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」から採火が行われました。その灯は、カザフスタン被爆者への鎮魂歌「ザマナイ」の曲が流れる中、参加者の皆さんが手に持つろうそくへと分灯されていきました。

原爆犠牲者に黙とうを捧げた後、コロナ禍により、皆で「原爆を許すまじ」「青い空は」の合唱をすることはできま

せんでしたが、昨年と同じく梶川純司さんの篠笛演奏をしんみりと聴くことができました。その音色は、平和の池の水面を撫でるかのように神秘的に響き渡りました。

続いて、網本えり子さんによる詩の朗読があり、参加者の涙を誘うとても感動的なひとときでした。その余韻を胸に、参加者はろうそくを手に原爆死没者慰霊碑を中心に東西二手に分かれてゆっくりと行進しました。吹いていた風も原爆犠牲者の霊を慰めるかのように穏やかになり、まっすぐに立つ炎がしっかりと心の内を受け止めるかのようでした。

その間、被爆者の李鐘根さんと高校生平和大使が自然と言葉を交わし、時に笑い声が聞こえ、側にいた参加者は和やかで温かくほのぼのとした空気を感じたに違いありません。難しいことではない、こうやってただ人と人とが交わり、自然に言葉を交わすだけで、被爆体験の継承は可能になると教えられたように思いました。

開催にあたりましては昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のために万全の対策をして臨むことになりましたが、たくさんの方々のお力添えをいただきこの集いが継続して行えたことに心より感謝申し上げます。

(書記: 森 政美)

李 鐘根(イ・ジョンゴン)さん

1928 年生まれ。朝鮮半島から日本に渡った両親のもとに島根県で生まれ、広島に移住。
16 歳だった 1945 年 8 月 6 日、広島鉄道局への出勤途中に爆心地から約 1.8 km で被爆。



お話の内容

電車を降りて的場町の荒神橋を渡った瞬間、黄色みがかかったオレンジ色の閃光が走ったのでとっさに目と耳と鼻を押さえて伏せました。しばらくして顔を上げてみると周りは真っ暗。次第に開けてきた視界の先には、焼け野原が広がっていました。持っていた弁当箱は、30 メートル程離れた場所に飛ばされていました。職場に向かうとすると、両端の潰れた家から「助けてくれ」という声が聞こえてきました。でも一人も助けることは出来なかった。とにかくその時は早く職場に着きたい一心でした。

なんとか職場まで着くと、先輩が「顔が真っ赤になって腫れている」と言い、私の顔に機関車の油を塗ってくれました。しかし、あまりの痛さに「もうやめてくれ!」と力づくで、はねのけたのを覚えています。その後、仲間たちと一緒に機関庫のそばの防空壕で過ごしました。

しばらくして、会社から支給された帽子が爆風で飛んでなくなっていることに気づき、帽子を探すために防空壕を出ました。東練兵場の辺りに行く途中で、多くの焼けただれた人を見ました。服がちぎれて半分裸の様な状態で皮膚は垂れ下がっていました。街の中では「助けてくれー」「水をください」という声を聞き、倒れていく人や亡くなった人たちがたくさん目にしましたがどうしようもなくその場を去りました。何もしあげられなかった後悔は今も残っています。

結局、帽子は見つからず機関庫に戻りましたが、夕方 4 時くらいに仲間たちと職場を出ました。爆心地付近には近づくことができなくて、家のある廿日市まで、ずいぶん遠回りをして帰りました。家に着くと、弟だけで両親はいませんでした。「母さんと父さんはどこに行ったの?」と聞くと「兄ちゃんを探しに広島に行った」と言うのです。不思議でした。自分が職場にいることは父に伝えていましたが、詳しい場所は教えていませんでした。なぜかという、両親が職場を訪ねてきたら自分が韓国人だとばれてしまうからです。

その翌日から、やけどを負った首などにウジがわき、母親が「早く死んで楽になった方が、お前のため」と泣きながらそのウジを箸で取り除いてくれました。私も一緒に泣きました。その後、食用油を塗ってもらい、4~5 か月後には良くなり、職場にも復帰することが出来ました。

長い間、被爆体験を積極的に話すことはありませんでした。しかし、2012 年にピースボートに乗船したことがきっかけで体験を伝えるようになったのです。差別を恐れて自らのルーツを隠し、ずっと『江川政市』という名前で生きてきたのですが、それもやめ、現在は日本で生まれ育ちながらも『朝鮮人』と呼ばれるなど幼いころから差別をされた経験も伝えています。命は平等であらゆる差別のない世界であることを願い、核兵器廃絶への思いと共に訴え続けます。

李さんは最後に、「今を生きる若者には過去への責任はないが未来に対する責任はある。二度と戦争をおこすような人になってはいけない。今日、話を聞いてくれた皆さんには明日から語り部になって欲しい」と締めくくられました。

参加者は、李鐘根さんからのメッセージをしなやかな心で受け止めたに違いありません。明日から何をなすべきか自分自身に問う、よいきっかけになったのではないのでしょうか。(学習部会:西村宏子)

微力だけど無力じゃない！たくさん集まれば大きな力に！



第24代 高校生平和大使 高橋奈乃果

皆さんこんにちは第24代高校生平和大使の高橋奈乃果です。私たち高校生平和大使は、「微力だけれど無力じゃない」という言葉を胸に、日々核兵器廃絶に向けて活動を行っています。

76年前、1945年8月6日8時15分。一発の原子爆弾によって、広島は一瞬で地獄と化しました。水を求めて川に飛び込み亡くなった人、皮膚が垂れ下がった人、目玉が飛び出して亡くなった人、家族を探し求めた人、多くの人が希望を失いました。日常を失いました。そして、原子爆弾によって亡くなった人の中には、子供や女性たちなど、戦争に関係のない人々が多く亡くなりました。原子爆弾は、そのような戦争に関係のない人々の命も奪うものです。また今でも、原子爆弾から出た放射線による後遺症や、ひどい火傷のあとのケロイドなどにより苦しんでいる人がいます。

今、被爆者の方々の高齢化が進み、原爆の記憶が薄れつつあります。私たち若い世代にできることは、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さを多くの人に伝えることではないでしょうか。

私は、一人一人は微力だとしても、たくさん集まれば大きな力になると思います。多くの人が原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えれば、核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けられる「平和の灯」を消すことができるのではないのでしょうか。私は、多くの人々に広島で起きたこと、核兵器の怖さを伝え、原子爆弾によって奪われたもの、命の尊さ、核兵器の怖さについて考えてくれる人を増やしていこうと思います。広島の平和の思いをしっかりと伝えていきましょう。



「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告)

国は、毎年11月12日から25日までを「女性に対する暴力をなくす運動」と定め、意識啓発を行っています。

その一環として、11月12日(金)八丁堀交差点付近で、広島市、国際ソロプチミスト広島-中央、ひろしまWENETが連携して、市民への街頭キャンペーンを約20人で実施しました。コロナ禍でもあり、マスク、手袋着用でDV防止のためのプラカードを掲げ、相談窓口等が書かれたチラシとポケットティッシュを配布しまし

た。手に持っていたポスターに興味津々の人もいて、あっという間に用意した配布物がなくなり、予定を30分も早く終えました。

「喧嘩はやめられん」と話しかけてきた男性に「暴言もDVです。口喧嘩をしてもおまえはつまらんなど相手を否定するようなことは言わないでくださいね」と言うと「うん、分かった」とニコニコしながら立ち去られました。(広報部会 貴田)



女性に対する暴力撤廃国際デー ～キャンドルアクション in ひろしま～ (報告)

1960年11月25日、ドミニカ共和国で、ラファエル・トルヒーヨの独裁政治に反対し続けていたミラバル3姉妹が暗殺され、1981年、第一回ラテンアメリカ・カリブ海地域女性会議で、11月25日を「女性に対する暴力に対する闘争と啓発の日」とし、世界各地の女性たちは活動を続けました。1999年12月17日、国連総会でこの日を「女性に対する暴力撤廃国際デー」と定め、毎年11月25日から12月10日「国際人権デー」までの16日間世界中で様々なとりくみが行われています。

広島においても11月25日午後5時30分から原爆ドーム東側で、キャンドルアクションが行われました。

キャンドルに灯をともし、フルート演奏が流れる中、主催者（日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク）挨拶に続き、協賛団体（ゆいぽーと男女共同参画推進協議会、広島市女性団体連絡会議、ヒロシマ女たちの会）の3人からリレートークが行われ、参加者一人ひとりが性暴力をなくそうという思いを強くしました。（広報部会 貴田）



ひろしまWENETからのお知らせ

2021年度 広島市女性団体連絡会議 役員紹介

役職名	氏名	団体名
会長	貴田 月美	I女性会議 広島支部
副会長	西村 宏子	2000+17・平和
副会長	山本 紀子	水曜茶論
書記	山本 紀子	水曜茶論
書記	森 政美	水曜茶論
会計	宮田 保江	安芸コスモスソナクラブ
会計	土居 絹子	安芸コスモスソナクラブ
学習部会長	平木 久恵	2000+17・平和
啓発部会長	中嶋 典子	Human&Network 宙(そら)
広報部会長	藤永 雅子	広島市未来を考える女性の会
監事	松井 浩子	国際ソロプチミスト広島
監事	佐藤 奈保子	I女性会議 広島支部

イベントコーナー

◆ 2022年男女共同参画セミナー

日時：2022年2月5日（土）
13:30～16:00
場所：広島平和記念資料館 東館地下1階
メモリアルホール

講師：弁護士 寺本佳代さん

テーマ：性暴力のない社会にするために
～性暴力の実態と刑法改正について～

◆ 2022年国際女性デーひろしま

日時：2022年3月13日（日）
13:00～15:30
場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ
北棟6階 マルチメディアスタジオ

講師：弁護士 寺西環江さん

テーマ：コロナ禍があらわした女性の貧困

WENET ニュース第52号 2021年11月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議（広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付）

責任者 貴田月美